

第1回氷見市液状化対策検討委員会 議事要旨

- I. 日時 2024年8月1日（木）15:00～17:10
- II. 場所 氷見市役所 201 災害対策室
- III. 出席者 【委員】三村委員長、安田副委員長、上田委員（欠）、兵動委員
【オブザーバー】奥山オブザーバー、川上オブザーバー
【事務局】林市長、篠田副市長、神代部長、宮下課長、草山主幹
- IV. 配布資料 ・第1回氷見市液状化対策検討委員会資料

【報告】

令和6年能登半島地震における氷見市液状化被災概要、被災メカニズム、既存ボーリング調査結果、東日本大震災・熊本地震災害における液状化対策工法の紹介、新規ボーリング調査計画の報告を行った。

【報告に関する意見】

- ・ 東日本大震災、熊本地震災害の被災地では、液状化対策として地下水位低下工法が採用されている事例がある。氷見市においては揚水した地下水を消雪用水として利用することも有効である。
- ・ 揺れによる直接的な被害と液状化の被害を明確に区分して把握する必要がある。液状化層が存在するか否かは非常に重要なので、何度もレビューするなどして慎重に確認すると良い。
- ・ 側方流動で家がどれだけ被害を受けたかを調べると、UAV レーザ測定の結果（隆起・沈下）を説明できる可能性がある。
- ・ 液状化するような緩い砂と海岸沿いの比較的硬い浜砂を区別すること、地形的に埋立地、砂州、後背地、旧河道を分けることは必須条件である。
- ・ 既往ボーリングのデータを用いて、対象領域の南部まで広げて検討すると良い。特に、既存の孔内水位の定期観測データは全部集める。
- ・ 地下水の流向を知るためには、スクリーウエイト貫入試験の孔を利用した地下水位測定を、砂層を切る横断方向に何点か実施して推定していくと良い。
- ・ 計画中の追加ボーリングについて、原案に基づいて今日の議論内容を参照して、必要に応じて変更を加えると良い。

【委員会スケジュール】

第2回目（10月上旬）を予定する。

以上